第1章 No.03

日本洋画界の「日本初」の二人

百武兼行と岡田三郎助

日本における西洋絵画の黎明期にすばらしい作品を残し、その後の多くの画家に影響を与えた人物が、佐賀県出身の百武兼行と岡田三郎助です。

(佐賀県立有田工業高校所蔵)

母と子 百武兼行／1878(明治11)年　ロンドン滞在中に描いたとされる百武の代表作です。

調べてみよう

日本画と西洋画の違いを調べてみよう

イギリスで絵を学んだ百武兼行

百武兼行は、1842(天保13)年、佐賀藩士の家に生まれました。8歳のときから佐賀藩最後の藩主・**鍋島直大**のそばに仕えてきました。

彼の最初の渡欧は、1871(明治4)年、**岩倉具視**が団長となった米欧回覧使節が派遣された際、直大の側近として、イギリスに渡ったときでした。1度帰国して2度目にロンドンへ渡ったとき、直大夫人**胤子**が絵を学ぶ際のつきそいとして同席したことが、百武が絵を学ぶ始まりでした。また、直大のそばに仕えるかたわら、経済学も学びました。

政府役人としての立場であったため、絵の勉強は、仕事の合間に行っていました。西洋画は、まず風景画、次に人物画、そして最後に歴史画を学びます。百武は短い時間ながら、ロンドンで風景画、パリで人物画を習得しました。2度目の渡欧から帰国するとき、百武の才能を認めた直大は、パリに残ってさらに西洋画を学べるよう計

(佐賀城本丸歴史館提供)

百武 兼行
1842(天保13)年～1884(明治17)年

(佐賀県立博物館・佐賀県立美術館提供)

岡田 三郎助
1869(明治2)年～1939(昭和14)年

マンドリンを持つ少女
百武兼行/1879(明治12)年/佐賀県重要文化財
(公益財団法人鍋島報效会所蔵)
直大の計らいでパリに残り絵を学んでいたころに描かれました。

らいました。

日本初の洋画の裸婦像

百武は1880(明治13)年、イタリア公使となった直大に同行したとき、**「臥裸婦」**を制作しました。これは、日本初の洋画の裸婦像です。

百武の作品はほかにも、**「バーナード城」**や**「母と子」**、**「マンドリンを持つ少女」**などの絵が残されていますが、43歳で他界した彼が生涯に描いた絵は数少ないと言われています。当時は展覧会のような催しもなく、多くの人に認められる機会がないまま、プロの画家とはならなかったことが作品が少ない理由の一つです。しかし、日本の洋画界の先駆者となった百武の絵は、のちの**岡田三郎助**に大きな影響を与えました。

第1回目の文化勲章を受章 岡田三郎助

岡田三郎助は、1869(明治2)年、佐賀藩士の家に生まれました。岡田は8歳くらいから絵に親しんでいました。岡田が東京の佐賀藩屋敷に暮らしていたとき、近くに百武の家があり、そこに百武の描いた西洋画がありました。岡田はそれを見て心を躍らせ、画家になる決意をしたと言われています。

百武の絵に影響を受けた岡田の画壇での活躍は華やかでした。

画塾で学び、その卒業制作として彼が24歳のときに描いたのが**「矢調べ」**です。この絵は翌年、明治美術会へも出品されることとなります。

岡田は、同じ佐賀出身の画家・久米桂一郎の紹介で**黒田清輝**と知り合います。1896(明治29)年、黒田、久米、藤島武二らとともに**白馬会**を設立しました。その後、洋画家としては日本で初めて、文部省派遣の留学生としてフランスへ渡りました。帰国後、1902(明治35)年に東京美術学校(現在の東京芸術大学の前身の一つ)の教授に就任しました。同じく教授だった藤島武二らと若い画家たちを指導し、その後の日本洋画の大きな流れを確立していきます。

1907(明治40)年には、東京勧業博覧会で岡田が描いた**「婦人像(紫調べ)」**が1等を受賞し、同年、岡田は文展(文部省美術展覧会。のちの日展)の

矢調べ 岡田三郎助/1893(明治26)年/佐賀県重要文化財
(佐賀県立博物館・佐賀県立美術館所蔵)
まだ絵を学ぶ立場だったころ、画塾の卒業制作として描かれた作品です。既に抜きん出た画力を持っていたことがわかります。

あやめの衣　岡田三郎助/1927（昭和２）年　（ポーラ美術館所蔵）

女性のやわらかな肌と、藍色の友禅に朱色の鹿子絞りをあしらった帯状の模様が美しく調和し、日本人らしい感性と油絵の手法が見事に融け合った作品として知られています。

第1回目からの審査員に就任しました。1934（昭和9）年には、現在の重要無形文化財保持者（通称：人間国宝）に相当する**「帝室技芸員」**にもなりました。そして、1937（昭和12）年に制定された**文化勲章**の第1回目の受章者となったのです。

日本人的センスが西洋と融合し、「美」は生まれた

岡田三郎助と言えば美人画、と言われるほど、女性の優美さを描いたことで知られています。

明治時代、画家を目指し渡欧した日本人の多くは、迫力ある西洋画に圧倒され、日本人が西洋画を描く意味を考えました。岡田は、そこに和と洋の融合を見出しました。

浮世絵の人物画には、背景が描かれていない絵が多くありますが、西洋画の場合は人物画にも背景が描かれています。岡田の美人画の代表作**「あやめの衣」**を見ると、背景がなく、日本の金屏風を思わせるような、古くから受け継がれた和の技法も取り入れて描かれたことが分かります。「後ろ姿の美人画」という、日本の伝統的構図と西洋の写実主義が融合した見事な作品です。

佐賀県立美術館では、「OKADA-ROOM」として岡田三郎助を紹介する常設展示を行っています。佐賀県が誇る画家の軌跡を知るためにも、美術館や展覧会などにぜひ出かけて、本物を見る機会をもちましょう。

学校の取組

【郷土民話の挿絵制作】

佐賀県立佐賀北高等学校
芸術科美術専攻

佐賀県立図書館の依頼を受け、平成２４年から５年間、郷土民話の挿絵を制作しています。

読んでみよう！

佐賀偉人伝03『岡田三郎助』
佐賀県立佐賀城本丸歴史館刊

調べて書いてみよう！

佐賀県の画家は他に誰がいるでしょう。調べて書いてみましょう。

出かけてみよう！

佐賀県立博物館・佐賀県立美術館（佐賀市城内１丁目 15−23）
岡田三郎助の常設展示「OKADA-ROOM」では年4回作品を入れ替え。百武の作品が展示されることもあります。
TEL 0952-24-3947／**休館日** 月曜日／開館 9:30〜18:00

検索してみよう！

百武兼行 ロンドン

文化勲章